

本当は奇跡の水道水

駒繫小学校

五年一組

中間

正

なかま

せい

ぼくは、学校で東京の水道水について、水道局の人から教えてもらって、すぐたくさんのことを知りました。家でも、学校でも、蛇口をひねると当たり前においしい水が出てくるけど、飲み水として使えるのは川や湖の水で、海の水や南極・北極の氷は使えないから、地球上の0.01パーセントの水だけという話かとても驚きました。

その大切な水は、ぼくたちの体の半分以上を作っていて、栄養や酸素を体中に運んでくれて命を守ってくれていることも教わりました。毎日リットルの水を飲まないといけないことも知って、ぼくたちの命を守ってくれている大事な水だから、シャワーや歯みがきの時は水の出しっぱなしは今までよりももっと気をつけなきゃいけないと思いました。

ぼくたちの命の水は、東京の奥多摩から山梨まで広がっている水道水源林に降った雨が

3
ふかふかの土の中を何年もかけてゆくりと
しみこんできれいな水になっ、ていくことも教
わりました。そのためには、定期的に木を切
っ、て森林のお手入れをしていて、それも水道局
の人達のお仕事だと知りました。土を通、た
地下水が川を流れて、ダムに貯められて、淨
水場に行、てきれいになっ、てから水道管を通
っ、てぼくたちの所まで運ばれてくるまでに、
何度も何度も検査して、きれいになっ、た後も
本当に飲んでも大丈夫なレベルになっ、ている

4
か検査をしていて、ぼくたちが蛇口をひね、
たら当たり前に出、ていた水は、本当は当たり
前なんかじ、なくて、たくさんの人達が交替
で二十四時間働いてくれて初めて届けられて
いる、すぐごくすぐ大切な水なんだと分か
りました。

世界には、学校にも行けず、毎日何往復
も何往復もして水をくんでいる子、どもたちが
たくさんいると習いました。ペットボトルに
入、っている水を運んだことがあるけれど、四

本持。ただけで、すぐに両手が痛くなつて、
スーパ―から家までの何分かでもすごく大変
だ。たのに、ぼくよりも小さい子たちがバケ
ツを持って運んでいるのはとても驚いたし、
学校に行けることも当たり前じゃないんだと
思いました。

5
同じ地球に住んでいても、住んでいる場所
や環境は全然違つていて、でも人間が生きて
いくためには絶対に水が必要で、地球全体に
ある水をプーール一杯とすると飲める水はたっ

6
たのバケツ三杯分しかないことを知つて、絶
対に水を大切にするぞ、と決めました。ぼく
たちが使うまでに、たくさんの機械を動かし
てきれいなつていているから、水を節約するこ
とは、機械を動かす電気も節約できてる、二酸
化炭素の発生もおさえられるから、地球の温
暖化の問題を解決するためのSDGsの目標
も達成に近づけると思っています。
だから、ぼくたちはこれから水を守り続
けて、未来を守つていきます。